



## 近い未来、遠い未来

昨日の進路講演会は、前もってその内容を聞いていたU田先生が「役に立つ」とおっしゃっていた通り、参考になる点が多かったのではないだろうか。当面の興味として、「近い未来」の話は大切な情報が満載だったし、「遠い未来」の話は、大きな目で自分のこれからを考える上で、直接的とまではいえなくとも、新しい視点を提供してくれたのではないだろうか。

\*

「近い未来」の話では、センター試験の重要さと、二次の個別試験に向けて情報収集の大切さが強調されていたと思う。特に、センター試験については、8割以上が教科書範囲からの出題であり、それ故に、その準備をしっかりやってしっかり得点が取れるということが、そのまま二次の個別試験の好結果に結びつくという指摘があって、まさにその通りだと思う。また、合格者に共通の特色として、得意科目（得点が高い科目）よりも、不得意科目（得点が高い科目）がない、あるいは、不得意であっても極端に点数が低くないという特色があることも指摘されていて、これも今後の学習を考えていく上で大切なポイントだと思う。忘却曲線のグラフも説得力があった。明日チャレセンの申し込みがあるから、まずはそれをきっかけとして、自分のこれからの学習計画を考えてほしいものである。

\*

一方、「遠い未来」の話の中で印象に残ったのは、「やりたいことは知っていることの中からしか見つからない」ということ。言われてみれば当たり前のことなのだが、自分が偉いと思いがちな我々は、こういうことをう

っかり忘れていたのである。

例えば、今やりたいことが見つからず、進路選択で迷いに迷っている人もいるわけだが、今自分の「知っていること」がどれだけ狭いかを認識すれば、その中で「あ～でもない、こ～でもない」と考えていることが、あまり意味のないことなのだとということが分かるのではなからうか。上級学校に行き、新しい世界・新しい友人と出会えば、「知っていること」はどんどん広がっていくわけだし、その中で自分の「やりたいこと」が見つければ、文系・理系という分類が意味を小さくしている今の時代、そこから新たな「やりたいこと」に向かってスタートすることは十分に可能なのである。だから、もし今迷っているとすれば、現在の「知っていること」の狭い段階では、その狭い範囲の「知っていること」の一つである「科目の好き嫌い」といった観点から進路を選択するといったことでも、まったく構わないのである。というか、特に決まった「やりたいこと」がない限り、まずは目の前の「科目の好き嫌い」（自分一人で長時間勉強できるかどうか…）で選ぶしかないということでもあるだろう。

\*

好奇心の3種類という話も興味深かった。ネットでの情報が我々の「拡散的好奇心」に訴えるという指摘は尤もだったし、しかし、その「拡散的好奇心」には意味がなく、「知的好奇心」をもつことが自己を成長させていくのだという指摘も重要だ。「教養主義」という言葉は耳タコだろうが、それにはしっかりとした根拠があるということである。